


こどもの特性の理解



こども発達支援センター風
管理者 兼 児童発達支援管理責任者
福高 翼

特性を理解するにあたって...

「障がいの理解」よりも
「特性の理解」
特性を理解すること

「障がいの理解」よりも「特性の理解」

○診断が同じだから、みんな同じ？

- 同じ診断名でも、一人ひとり特徴は違う。
- 障がいの理解はもちろん大切。
- でも、発達障がいや自閉症スペクトラムの障がいを理解するだけでは、こどもの特性の理解は不十分。
- こどもの特性を理解し、どのような支援が必要なのかを把握することが大切。

特性を理解すること

○自閉症スペクトラム等の発達障がい

- 他人との関係づくりやコミュニケーションをとることが苦手。
- 得意な分野で優れた能力を発揮。
- アンバランスな様子も現れ方も一人ひとり違う。

↓

- ◆ 困っていることが理解されにくい
- ◆ 困っていることが一人ひとり違う

特性を理解すること

○自立していくために...

- 集団生活や社会の中で、発達障がいの人々が個々の力を伸ばせるように、こどもの頃からの適切なサポートや、障がいに対する一人ひとりの理解が必要

○理解していることで...

- 一人ひとりの特徴や特性に応じた配慮
- 個々に合わせた支援

特性を理解すること

○特性を理解するとは...

- 困りごとに気づくきっかけ
- 得意なことを伸ばす
- 自立に向けて、何が必要か判断する
- 二次障がいを予防する

↓

**必要不可欠なものであり、
生活の手がかりになるもの**

発達障がいの理解

発達障がいの定義
診断基準
種類
知的障がいとの違い

発達障がいとは

- 定義
 - 発達障害者支援法（平成16年制定）
「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」



- ◆ 発達障がいとは脳機能の障がいの総称
 - ◆ 幼い時に発覚することが多い

発達障がいとは

- 定型発達と非定型発達
 - 違い
興味、理解や適応の仕方が違う
- 診断基準
 - ICD-10
世界保健機関（WHO）「疾病及び関連保健問題の国際統計分類 第10版」
 - DSM-5
アメリカ精神医学会「精神障害の診断と統計マニュアル 第5版」

発達障がいとは

- 発達障がいの種類
 - 自閉症スペクトラム（ASD）
 - 「自閉症」「アスペルガー症候群」「特定不能の広汎性発達障がい」が含まれる。
 - 境界線を引くことが難しい。
 - 学習障がい（LD）
 - 基本的には全般的な知的発達に遅れはない。
 - 聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態。
 - 注意欠如/多動性障がい（AD/HD）
 - 年齢あるいは発達に釣り合いな注意力。
 - 衝動性、多動性を特徴とする行動の障がい。
 - 社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもの

発達障がいと知的障がいの違い

- 発達障がい
先天性の脳機能障がい
- 知的障がい
知的発達の遅れの障がい（IQ70以下）



- 発達障がい ≠ 知的障がい

自閉症スペクトラムの理解

自閉症スペクトラムとは
疫学的データ
関連する障がい

自閉症スペクトラムとは

- 自閉症スペクトラム (ASD)
 - 広汎性発達障がいとほぼ同義
- スペクトラム
 - 連続体という意味。境界線を引くことが難しいため、広い意味で捉えられている。
- 原因 (推測)
 - 中枢神経の機能障がい。または、機能不全が原因
→ 脳における情報の処理過程に違いがある
 - **しつけや育て方、本人の怠慢などが原因ではない**
 - **※自閉症≠心の病**

自閉症スペクトラムとは

- 診断方法
 - 行動や認知の特徴から診断
→ 共通した診断基準が必要 (DSM-5、ICD-10)
 - 言語の検査
 - 行動の検査
 - 発達の検査
 - 絵の検査
 - その他の検査 (MRI、自閉症スペクトラム指数 [AQ])
- 知的能力
 - 最重度の知的障がいから高機能まで様々
 - IQ50~70 : 50%
 - IQ50以下 : 27%

自閉症スペクトラムとは

- 高機能自閉症
 - おおむね知能指数 (IQ) が70以上
 - 知的障がいを伴わないという意味
 - 高機能=社会適応がいい、ということではない
 - 自閉症スペクトラムの特徴はある
 - アスペルガー症候群
 - アスペルガー症候群≠高機能自閉症
 - ICD-10では2歳までに単語、3歳までに二語文が出ている、音声言語がよく、社会的理解が苦手な人をアスペルガー症候群とする傾向にある

テンプル・グランディン



疫学的データ

- こどもの状態は様々
- てんかんを起こす割合が多いと言われている
 - 25%~30%強
- 男女有症比率
 - 4 : 1?
- 自閉症スペクトラムの有症率
 - 1%強 (2.1%といったデータもある)
 - 有症率の上昇? : 診断技術の向上=高機能や軽度の人でも診断されるようになり実数が増加している

関連する障がい

- トゥレット症候群とチック
- 脳波異常とてんかん
- カタトニア、運動失調症
- 摂食障がい、睡眠障がい
- 抑うつ症状、強迫症
- 相貌失認

自閉症スペクトラムの特性

行動的特徴の4タイプ
「3つ組み」について
その他の特性
特性が把握できていないと...

行動的特徴の4タイプ

- 孤立群
 - 周りに人がいないかのように振舞う。自分の目的がある場合は他人に対しての反応もあるが、人を物のように扱う場面も見られる。
- 受動群
 - 社会的に孤立しているわけでもなく、他人を避けたりすることも無いが、自分からかわりを持つことが少ない。他人からの指示を受け入れやすい半面、指示がないと行動できない場面が見られる。

行動的特徴の4タイプ

- 積極・奇異群
 - 他人との接触が活発だが、同年代より大人や世話をしてくれる人に対する接触が多い。自分の要求や好きなことを、相手の感情等を考えず一方的に話したり、不適切なスキンシップがある。自分の思い通りに行かないと攻撃的になることがある。
- 形式的で仰々しく関わることも
 - コミュニケーションが良好で、意思の疎通もできるが、細部にこだわる傾向があり、決まりごとや約束ごとを頑なに守ろうとする。

自閉症スペクトラムの診断「3つ組」

- 社会性の障がい
 - 非言語性行動使用の障がい、仲間関係を作ることの障がい、対人的または情緒的相互作用の困難さ
- コミュニケーションの障がい
 - 言語発達の遅れ、他人と会話を持続する能力の困難さ、反復的な言語の使用、または独特な言語、変化に富んだ社会性を伴った物まね遊びの困難さ
- こだわりと想像力の障がい
 - 強くかつ限られた興味習慣や儀式へのこだわり、常同的で反復的な数奇的運動、物体の一部に持続的に熱中する

1 社会性の障がい

- 相手を意識したやり取りが苦手
 - 友だちを作るのが苦手
 - アイコンタクトがないか独特
 - 相手の感情や状況が読み取れない
 - かかわり方に相互性がない
- 集団での活動に参加することが苦手
 - 順番やルールを守ることができない
 - 協力して行う活動が難しい
 - 相手との距離感がわからない

1 社会性の障がい

- 暗黙の了解や流れ、雰囲気を読み取るのが苦手
 - 周りが黙っているときにおしゃべりしてしまう
 - 列に並ぶが、前についていけない
- ことばの裏側を読むのが苦手
 - 「まっすぐ帰る」→「直進で帰る」など
- 「心の理論」
 - サリーとアンの実験

やってみましょう！

2 コミュニケーションの質的障がい

- 話し言葉がない、話し言葉の発達の遅れ
 - 指差しのみ、喃語
- 話し言葉を理解することが苦手
 - 違う言い方をすると理解できない
- 話し言葉があっても、コミュニケーションの道具としてうまく使えない
 - 助詞や前置詞の使い方が違う
 - 文語調や杓子定規な表現をする
 - アクセントや音量が独特
 - 一方的に話す

2 コミュニケーションの質的障がい

- 非言語的コミュニケーションの使用や理解が苦手
 - ジェスチャー
 - うなずき
 - 表情の読み取り
- 「こそあど」言葉が理解できない
 - 「これ」「それ」「あれ」「どれ」などの代名詞が物事と一致しない
- やりとりが苦手
- エコラリア、反復言語

3 こだわりと想像力の障がい

- 同一性の保持
 - 一定の状態を保つようとする欲求
→ 変わることを、変えられることを極度に嫌う
 - 同じ行動を繰り返す（常同行動）
 - 決まった手順や儀式にこだわる
 - 反復的な感覚的体験
 - 配列にこだわる
 - 繰り返しの質問を好む
 - 空想的な物語を形成する

3 こだわりと想像力の障がい

- せまい興味に没頭する
 - 物を集める
 - 同じ遊びを繰り返す
- 想像することが苦手
 - 想像力の乏しさ
 - 経験していないこと、目に見えないことを想像することが難しい
 - ごっこ遊び（ふり遊び）の少なさや幅の狭さ
 - 時間の流れ、将来の計画への見通しが立てられない
 - 初めてのことや変更への対応が苦手

その他の特性

- 認知発達のアンバランスさ
 - でこぼこのプロフィール
 - 特殊なスキル cf. サバン症候群
- 体の使い方のぎこちなさ
 - ボディイメージがつかみにくい
- 感覚の異常、過敏さ・鈍感さ
 - 特定の場所、場面が苦手
 - 騒々しい場所が苦手
 - 怪我をしていても気づかない
- 摂食、睡眠など生理的機能の不調
- 気分の不安定さ、不安・恐れ等
- 手続的な記憶の仕方が得意

その他の特性

- 短期記憶より長期記憶に働きかける学習方法が有効
- 動作・操作を伴った学習方法が得意
- 聴覚より視覚的な情報処理が得意
- 同時に複数の情報を処理することが難しい
- 情報をまとめて全体像をつかむことが難しい
 - 中枢性統合（全体をまとめて把握しようとしたら、意味づけしようとする認知の機構）に障がい
 - 表情の認知、切り替えが苦手

こどもの特性

「違い」を知る
得意なこと、苦手なこと
違いを認めて、歩み寄る

「違い」を知る

学習／思考の違い
社会性の違い
コミュニケーションの違い
行動上の違い etc

「違い」を知る

- 見方（見え方）の違い
 - 部分を見る、まとまりとして見れない
→シングルフォーカス
 - 優先順位がつけられない
 - 意味がわかりづらい
 - 視覚イメージで考える
- 聞き方（聞こえ方）の違い
 - 音声のみの聞き取りが苦手
 - たくさんの音の中から、標的の音を聞き取れない
 - 言葉の裏側の意味が理解できない
 - エコラリアしないと意味が捉えにくい
 - 聞いたことを覚えていられない
 - 覚えるときはフレーズをまる覚えする
 - 黙読できない

「違い」を知る

- 感じ方の違い
 - 不要な刺激のマスクングができない
 - 何の音かわからず不安
 - 触られただけでも痛く感じる
 - 感覚過敏と鈍感
 - 尿意、空腹、満腹感が鈍い
 - 特定の感触が苦手
 - 特定の感覚刺激に強く惹かれる
 - 視覚- 整然、光の点滅
 - 前庭刺激- 回転、揺れ、嗅覚、自己刺激
 - 特定の刺激が特に苦手

「違い」を知る

- 人への意識の違い
 - 人への意識が薄い
 - 自分と他者が同属であること
 - 他人に気持ちがあること
 - 人を場所の付属物のように思ってしまう
 - 賞賛や共感を求めない
 - 人の動きが予測できない
 - 関わりたいが失敗する
 - どう思われるか不安、人が怖い

「違い」を知る

- 学習の仕方の違い
 - 視覚優位
 - 見本や図示、視覚的な指示の方が理解しやすい
 - 注意の向け方が狭く、強い
 - 字義通りの解釈をする
 - 見えないものが捉えにくい
 - 時間
 - 体性感覚
 - 前庭感覚
 - 導線 など

「違い」を知る

- その他
 - ファンタジー
 - 空想の世界で遊ぶことを好む
 - 人との関わりがうまくいかないとき、空想の世界に逃避しようとする
 - ごっこ遊びの様に見えて再現遊びであることが多い
 - フラッシュバック
 - 過去のことを突然、現実と区別がつかないほどリアルに思い出す
 - 嫌な体験を思い出しやすい
 - 退行
 - 一度獲得した能力が消失していく

得意なこと、苦手なこと

- 得意なこと
 - 具体的なことを理解する
 - 決められたルールを守る
 - 図鑑等の名詞を覚える
 - 見たままそっくり覚える
 - 気に入ったものへの集中力
 - パターンで覚えること

得意なこと、苦手なこと

- 苦手なこと
 - 動詞、形容詞、助詞、上位概念の理解
 - 長い文章の要旨理解
 - 一度にひとつのことしか処理できない
 - 急な予定の変更
 - 余計な刺激に攪乱されやすい
 - 注意の素早い切り替え
 - 声の大きさ、運動の力加減が苦手
 - 不器用

特性を把握できずにいると...

- 失敗経験やつまずきが積み重なる
- やる気の問題、努力不足という見方
- 無理強い、注意や叱責の繰り返し

◆ストレス、不安感、自信や意欲の低下

◆適応困難、不登校やひきこもりの原因に...

※「**かかわり**」と「**環境**」が重要

社団法人 大阪府作業療法士会



http://www.osaka-ot.jp/member/4i_jigyoun/hattatu_02.html

なぜ、子どもを理解することが難しいか

- 知識、情報の不足とネーミングの問題
 - 心の問題、育て方、引きこもりというイメージ
- 「見えない」障がい
 - 医学的な原因はいまだ、はっきりしていない
- 多様な状態像
 - 一人ひとり、異なる特性の程度と異なる特性の組み合わせを持ちあわせている
- 私たちが「違う」という認識が難しい
 - 自閉症の文化

「違い」を認めて、歩み寄る ～どう理解し対応するか～

これまでのやり方を見直す

- 年齢に応じた指導内容 → **自立した生活に向けた内容**
- 教えたいスキル → **本人の興味やニーズに合わせたスキル**
- いっぱい話す、説明する → **視覚的に提示する**
- 概念的に教える → **具体的に教える**
- 失敗から学ばせる → **成功体験から学ばせる**
- 集団で自然な指導 → **1対1や個別エリアで指導**

人間関係や生活の中で必要なことを身につける

- 身辺自立
- お手伝い
- 社会的スキル
- 学習スキル
- 褒められること、賞賛されることに喜びを感じる
- 指示を受け入れる
- 自分のことを知る

教育的アプローチ

- 環境や対応をこどもにわかりやすいように改める
(=周囲が変わること)
 - ・世の中には意味がある、あなたの周りには素晴らしい世界があることを伝えていく
- ↓
- こどもの理解力、適応力を高める**
- 自閉症スペクトラム特有の長所を伸ばし、短所を補う
 - 一人ひとりに合わせて個別化する
 - こどもの評価に基づいて目標を設定する
(芽生え反応を大切に)
 - 親と専門家が協力して取り組む

思ったことを全て口に出してしまう

- 就学に向けて、お勉強中は静かに取り組む練習を開始
- 声の大きさ5段階表をご自宅で活用されていることから、「レベル0」=話さないということは理解している
- 評価する手段として「OKカード」を活用
- まずは1つの課題から設定し、随時設定課題を増やしていく
- 質問があるときは手を挙げるようにリマインダーを用意



OKカード



リマインダー

支援プログラム

- TEACCHプログラム
 - 構造化 (Structure)
- PECS
- ソーシャルストーリー
- コミック会話
- 行動療法
- 応用行動分析 (ABA)
- 認知行動療法

子どもの発達にあわせて教える1～6



- 1 食事編
- 2 排泄・清潔編
- 3 着脱編
- 4 手・指の使い方編
- 5 お手伝い編
- 6 社会生活編

編集 公益社団法人 発達協会

価格 1冊1,200+税円

構造化 (STRUCTURE)

- 環境の構造化 (周囲の理解)
- 物理的構造化 (1対1対応)
- 時間の構造化 (スケジュール)
- その他etc・・・
 - ワークシステム
 - 視覚的構造化
 - ルーチン
 - コミュニケーション支援

「発達凸凹活用マニュアル」



<http://consulpiasapo.com/manual>
『びあさほ！Deコンサル』のホームページからダウンロードできます

こどもの特性を理解するには

- 「目的」と「手段」を点検
- 肯定的な声かけ、自己肯定感を育むかわり
- 安定しているときに、できるだけ多くの支援を行う
- 「困ったこども」＝「困っているこども」
- 「こどもの支援」＝「家族の支援」
- 「怒らないけど、譲らない」

こどもの特性を理解するには

- ◆「文化の違い」を認めること
- ◆特性と共存していく視点を持つこと
- ◆理解しようとする視点を常に持つこと
- ◆上手いかないときは方向転換の柔軟性を
- ◆私たちの方からの歩み寄り、少しずつ少しずつ、特性を理解していくこと